



福岡県感染症情報ホームページでは、
感染症発生情報、病原体検出情報などを
ご覧になれます。

がん感染症疾病対策課感染症対策係
担当 中尾 長藤
直通：092-643-3597
内線：3065

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和8年第30週（令和8年7月20日～令和8年7月26日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・手足口病の警報が継続しています。手足口病は、幼児を中心に発生し、感染から3～5日後に、口の中や手足に水疱性の発しんが現れます。発熱は38℃以下のことが多く、通常数日間で症状は消失しますが、発しんが消えた後も、2～4週間は便にウイルスが排泄され続けます。感染経路は、飛まつ感染、接触感染、糞口感染があり、保育施設等の集団生活では感染拡大しやすいため、特に注意が必要です。予防のため、日頃から石けんと流水で十分に手を洗う、タオルの共用をしない、排泄物（おむつ）を適切に処理する等を心がけましょう。
- ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が15件ありました。本疾患の病原菌は、ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌で、症状は、激しい腹痛を伴う水様性下痢、血便、嘔吐、発熱等です。毒素の作用により、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を発症することがあります。本疾患は、菌に汚染された食品等の摂取のほか、患者便に含まれる菌が手指を介することによっても感染します。調理の際には、食品を十分に加熱（中心部が75℃以上で1分以上）するとともに、調理用と食べる箸等を使い分けましょう。また、感染しても全く症状が出ない場合があり、知らずに他の人に感染させてしまうことがあります。手指を介した感染を防ぐため、調理前、食事前、トイレやおむつ交換の後には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	8	436	244	8,015
腸管出血性大腸菌感染症	15	108	126	1,689
レジオネラ症	4	34	83	1,307
侵襲性肺炎球菌感染症	2	75	28	1,713
梅毒	15	413	173	6,378
百日咳	2	166	62	3,764

■ 定点把握疾患報告数

：警報

：注意報

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	279	2.29	0.72	7,921	2.12
インフルエンザ	32	0.26	1.19	749	0.20
急性呼吸器感染症	5,569	45.65	0.93	193,016	51.89
RSウイルス感染症	109	1.56	0.83	1,082	0.48
咽頭結膜熱	52	0.74	0.83	777	0.34
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	156	2.23	0.99	3,944	1.75
感染性胃腸炎	341	4.87	0.90	9,015	4.00
水痘	40	0.57	0.85	669	0.30
手足口病	240	3.43	0.62	21,078	9.35
伝染性紅斑	3	0.04	1.50	148	0.07
突発性発しん	30	0.43	1.03	658	0.29
ヘルパンギーナ	102	1.46	0.64	5,190	2.30
流行性耳下腺炎	4	0.06	4.00	135	0.06
急性出血性結膜炎	0	0.00	—	3	0.00
流行性角結膜炎	52	2.00	1.13	380	0.55
細菌性髄膜炎	1	0.07	—	8	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	—	17	0.04
マイコプラズマ肺炎	2	0.13	0.40	191	0.40
クラミジア肺炎	0	0.00	—	5	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	0.00	9	0.02